

気仙沼への

第7号
2011.2

東京都台東区東上野6-1-1 (社)漁業信用基金中央会内 地域活性化研究会
TEL: 03-3841-4035 E-mail: kesenumabureau@yahoo.co.jp



絵：尾形将

「海を守る募金付き自販機のこと」

日出 英輔

このところ「海を守る運動推進委員会」の仕事を手がけています。また、ちょっと仕事が増えたわけですが。

実は昨年秋、NPOふるさとテレビの関係者としてアサヒカルピスビバレッジ社（以下「ACB社」と略称します。）の人と話していたら、同社には、社会貢献活動として募金付き自販機（清涼飲料用）の設置の意向があることを知りました。そこで海を守る運動にこの募金をお願いできるかと聞いたら、快諾を得ました。そこで生まれたのが、海を守る運動推進委員会（委員長は服部全漁連会長）。漁業団体のトップあるいは実務者のトップ等で構成するこの委員会は、ACB社と協力して「あなたの一本が海を守る」と大書した自販機の設置運動を水産関係団体あげて行うことにしたのです。

ともかく清涼飲料を1本買ってもらうと、1円が海を守る運動に寄付される。「たかが1円というなかれ!」ACB社だって、1本100円ちよつとの商品を売り上げて1円抛出するのだから、相当の利益圧迫でしょう。これなかなかの英断です。募金を頂くこの委員会は、この自販機が設置されると、1台につき月〇〇〇本売れば、確実に〇〇〇円が海を守る運動の資金となるの

です。ようは設置台数の問題。（ご参考までにいうと、設置場所提供者には別途手数料的なものが支払われます。）

それにしても、このところ大手企業の社会貢献活動は目覚ましいものがあります。国内外で植林をしたり、東南アジアで学校建設をしたり、枚挙にいとまがありません。このACB社の担当に聞くと、「社会貢献」というよりも「社会的責任の発揮」だそうです。健気ですね。日本も変わりつつあるなあ実感しました。

海を守る運動委員会関係者の中では、このACB社の活動に応え、今度は全国の水産関係者自身が海を守るための「責任発揮」と受け止めてこの自販機の設置を進めてもらうことが出来ないだろうかという話がわき起こってきたのです。

私はこの委員会の委員長代行として今全国の水産関係者に働きかけをしています。

そこで気仙沼の方々にお話したいのです。

気仙沼の街中に、魚市場や加工場に、この「あなたの一本が海を守る」と大書された自販機が至る所に設置されたら、何が生まれるでしょうか。街の人は「ああ、この街はあげて海を守るのだ」との思いとちよつとした満足感を持つで

しょうし。また、駅でも、街でも、魚市場でもこの自販機が多くの場所で目につけば、旅行者は「ああ 気仙沼は本当に海を大事にしているんだ」と思うでしょう。街のイメージをあげる格好の手段になる筈です。

この話にご賛同の方は、是非ともご一報願います。

ちなみに、気仙沼での第1号の自販機は、先般、

佐藤漁協組合長及び漁協職員の方々のご協力で魚市場の一角に設置済みです。

一企業の社会責任発揮の事業が水産業界全体の責任発揮の事業となり、さらに水産業を中核としている地域の大きな対外アピール手段へとつながっていることを感じるこの頃です。

(ひので・えいすけ) 昭和16(1941)年生まれ。前参議院議員。平成17年、地域活性化研究会を立ち上げ、全国の農林水産業・食品産業を中心とした地域おこしの支援をおこなっている。

私は気仙沼が好きだ。4

千葉 一宏

私は気仙沼が好きである、が一つ不思議な気がしている。それは気仙沼の地の利である絶景ポイント安波山の下にトンネルが出来て観光客を乗せたバスが気仙沼で停まらず素通りしている模様である。確かに市内を通らないので交通渋滞は無いかも知れないが、財布を持った観光客がバスに乗ったまま岩手県に行ってしまうのである。

又岩手で観光してお金を使い気仙沼を素通りして帰ってしまうのである。財布を持っていてもバスに乗ったままでは買い物や食事は出来ない、何でバスを止め財布を持ったお客さまにバスから降りて頂く工夫をしないのであろうか不思議でならない。聞くと気仙沼は静だそうであるが、それで良いのであろうか。

気仙沼を発展させるには魚以外にもいくつかの柱があった方がいい。雇用の場も増えるし元気なシルバー世代の活躍の場も増える。民の出来る事は民で、官のやるべき事は官で知恵を出し合い工夫してあたれば必ず道が開ける。

そこで肝心要のバスに停まって頂く方法は只一つ、清潔なトイレ群が整備されている事と何台ものバスが一度に駐車出来る事である。トイレはバス旅行には欠かせない必要なものであり、

旅行会社もバス会社も旅行者には快適な旅行を提供しようと努力している。駐車場が狭くてスペースが無かったりトイレが少なかったり汚くてはダメである。三陸一ではなく日本一の清潔なトイレを目指して設置する事を提案したい(ソフト面の運用が大事でクリアする方法はあるはず)。食事処、地元産品のショッピングセンターの併設も不可欠だ。旅行者に気仙沼で車から降りて一服していただく為の、旅行者の目に叶う条件は何か。三陸自動車道が通れば一般道の交通量は少なくなるが気仙沼インターチェンジ付近のエリアも含めお土産用地元産品の開発等官民あげて検討しては如何であろうか。

千葉県富津市(房総半島の浜金谷の手前)に『漁師料理かなや』と言うドライブインがある。ここはトイレは普通であるがいろんな面で参考になると思う。「ウン」は「運」をよぶ。これ間違いない。

私は気仙沼人が大好きである。

気仙沼を離れて50年、周囲の皆さんに支えられ何とか今日まで生きてきた。与えられた人生、これからも自分の歩く道を試行錯誤しながら突き進む、そしてお節介をやく、何が見えてくるか先が楽しみだ、それもこれも18年間気仙沼

で培った何とか工夫する気持とちよっとお節的な遺傳的精神のお陰だと思う。

その様な工夫し、他人を気使う気仙沼人が大好きである。気仙沼はいろいろ地の利がある。あとは天の時に向かって日々工夫をこらし、一人一人知恵を出し合えば道は開ける、明日は明るい、明後日はもっと輝く。

私は時々二宮尊徳の句を思い出す、
「この秋は、雨か嵐か知らねども、今日の務めぞ田草取る也」

気仙沼の可能性に熱烈エールを送りたい。

(ちば・かずひろ) 昭和 17 年生まれ。チバプロダクツ (株) 代表取締役。

ふるさと物産展について

日々の生活の中で、新聞の折り込みチラシに、デパートや量販店のふるさと物産展の開催を見つけると、お里心が疼くのか、つい出かけたくなります。

しかし、わざわざ足を運んでも、盛り上がりには欠ける、お気の毒な物産展も、多々見られます。ちなみに、この手の企画で、いつも圧倒的な人気を博している、北海道と九州の物産展は、あちこちのデパート、量販店で、何度も開催されています。この地区は、圧倒的な品数で豊富な加工品が、美味しそうに、ところ狭しと並んでおり、来客が大勢押しかけるのも納得します。

この人気を生み出す背景は、地域の水産物・農産物・畜産物の豊富な加工品が、三位一体で揃っていること、これが消費者ニーズを満足させると言われています。

この背景から観ると、気仙沼の販売戦略は、水産物の生もの・加工品に、極端に偏っていますが、これまで個性的な商材と関係者の努力で、消費者に知名度をアピールできましたが、今後の販売戦略を検討する際には、品揃えについても検討の余地があります。

この一例として、気仙沼市を中核とした、岩手県も含めた、県域を跨いだ地域を、一つの経済特区として、品揃えを拡大し、大消費地向けに発信することはいかがでしょうか。

小山 智善

当面継続する物産展でも、この経済特区の企画として実施し、共通して使用できる、キャッチコピー（仮称、〇〇〇〇産？）等も設定し、特区一体となった広報活動を行うことはいかがでしょうか。このことは、現行規模の物産展では、費用対効果も小さく、ボランティア依存もあり、いずれ見直しの時期が来ると思われるからです。

毎年盛大に開催される、目黒のさんま祭も、マスコミ報道に浮かれることなく、一般の参加者の意向をしっかりと把握しながら、特区の農畜産物もどんどん追加し、今後の発展と継続を検討したい。

もちろん、フカひれ、ホヤ、牡蠣等の水産・加工品の販促でも、特区の農畜産品も豊富に加えた、販促活動はいかがでしょうか。

経済特区としての、新たな視点で物産展を検討頂きたく思います。

また、観光誘致においても、気仙沼市の観光だけに訪れる人はいません、特区内の観光スポット、名所・旧跡を連結して、安心・安全・安易に観れる、シルバー世代にも優しい、癒しコースも設定して、特区として情報を発信しませんか。まずは、この様な企画を推進する人材確保からスタートです、関係者のご奮闘を祈念します。以上、釈迦に説法ですが、悪しからず願います。

(おやま・ともよし) 昭和 20 年生まれ。全中を定年退職する以前から室根ふるさと会の幹事をつとめ、様々な会合の世話役をつとめている。

漁業者の所得補償対策に想う

村上 洽視

漁業は、国民への水産物の安定供給を使命としながらも、水産資源の多くが低位水準にあることや、燃油（漁船用A重油等）価格の急激な変動、漁獲量の減少等を反映して、その経営が厳しい状況のようだ。故郷・気仙沼においても、昨年2月のチリ地震津波（因みに1960年の津波のときは、中学1年）による養殖施設等への被害に加えて、カツオ、サンマの回遊遅れやマグロ延縄船の幹部船員の不足等の影響があったようである。

このように厳しい漁業経営は、もはや自助努力の限界を超えており、漁業者が将来にわたって持続的に漁業経営を維持できる環境の整備が求められている。これを受けて、国は、漸く、2011年度の政府概算予算において、漁業者の『所得補償対策』を講じることにした。これは、永年、漁業者団体が最重要政策と位置づけて要望してきた漁業経営安定対策として、水産物の資源管理に取り組む漁業者を対象に、漁業共済制度と積立ぶらすを抜本的に見直し、拡充した新たな収入安定制度である。この制度は、農業の直接支払（戸別所得補償）とは異なり既存の制度の仕組みを見直し、拡充のうえ、活用するのが狙いで、いよいよ本年4月から実施されることになる。

一方、今日の水産資源の減少を招いた原因の一つには、確かに気候変動による海水温の変化などの影響もあると思うが、資源の乱獲によるものとの見方をする説も聞く。「親の仇と魚は見たときにとれ」という諺があるが、漁業者には「とれるものを目いっぱいとりたい」という意識が

あるのも事実であろう。しかし、この制度の運用を機に、勿論、儲かる漁業を目指すのは当然としても、むやみに乱獲せずに子々孫々に残せる漁業に配慮しつつ、漁業者はもとより行政、民間等が一体となってしっかりと資源管理・育成ができるよう努めるべきだろう。また、所得補償を過度に期待することより、今後の漁業経営の在り方や資源の守り方を漁業者自身が考え直すことも必要かと思う。

最近、国内でのサカナ離れとは逆に、世界中の人々が健康志向からサカナを食べるようになってきており、水産物の需要は増大していると聞く。それぞれの国の嗜好に合わせた輸出を視野に入れば大きな可能性もあり、水産加工を含めた水産業が元気を取り戻す絶好のチャンスかもしれない。

小生は、まさに団塊世代で、子供の頃、肉が食卓に上る機会が少なく、偶に食するぐらいであったことから、サカナで育ったと言ってもいいが、その世代が定年やらで人生戦線を縮小したため、国内のサカナ離れに一層拍車がかかったとの記事を目にした。魚介類の好きな者にとっては、にわかには信じがたいが、真偽の程はともかく、これからも故郷・気仙沼の親戚等から旬ごとに届く「海の幸」に感謝しつつ、いつまでも漁業が持続できることを願う。

ネットのいま

小山 利英子

最近はマスメディア離れと言われてます。他に娯楽がたくさんありますから、以前のように皆が同じ番組を見るという時代が終わったのだらうと思います。

景気が悪いですから、まず最初に削減されるのは広告費。よって、テレビ、ラジオ、新聞の広告費は軒並みダウン。Webでの広告へと大きく舵を切っています。しかしながらネット広告の手法は、従来のような広告代理店におまかせ方式とは異なりました。一番の影響力は、グーグルによるクリック広告です。

クリック広告をしたいと思ったら「広告掲載はこちら」をクリックして、「今すぐ開始」ボタンをクリックして、あっという間に広告主として、ネット上に広告を出すことができます。つまり、これまで難しい手続きが必要だった広告が、いとも簡単に、そして安価に出来てしまう。

そして、ツイッターがこの流れに拍車をかけます。ネットでつぶやいた書込みを読んで、これが有益と感じた読者はリツイートという引用方式を使って、別の人へと広げます。つまり、クチコミの速度が一段と加速されているということです。ツイッターの公式アカウントで有名な人は、実は普通の会社員であったりします。有名な「カトキチ」の「ツイッター部長」は、おやじギャグ「おそれいりこだし」が受けて若者にも大人気。1961年生まれのおじさんが怒濤のつぶやき。広告代理店を絡めず、広告の予算も使わずに、日本じゅうに、この人のつぶやきが流れます。と言ってる間にツイッター部長はカトキチを昨年末で退職し、この1月は丸亀製麺に移籍、そのつぶやきにファンが注目し

ています。

「コロニーな生活」というゲームがあります。このゲームは「位置ゲー」といって、日本全国を巡り、移動距離に応じて仮想通貨を入手するというものですが、おもしろいのは、仮想空間とリアル空間を結びつけた点です。「全国をまわってコレクションしよう！」コーナーでは、実際に全国の、その場所でしか手に入らないものを入手してポイントを稼ぐことが出来るという遊びで、実はそれによって賑わっている地域やお店が実際にあるということです。

これまでゲームは苦手、パソコン苦手、ネット苦手と思っていたても特に支障もない暮らしがありました。これからはそうもいかない時代が来ています。そして、その格差は、ものすごいスピードで迫っています。

ネットは良いことばかりではありません。例えるなら車と同じです。車は歩くよりも速く、そして楽に、目的地に到着することが出来る夢の乗り物ですが、逆に交通事故を引き起こして、死者が出ることもある。メリットがあるけれど、同じくらいのデメリットもある。使う側が、そのことを理解して、上手に付き合うのが良いのです。

車は、教習場があって、教官がいろいろと教えてくれます。

ネットは、誰が教えてくれますか？

気仙沼にいても使いこなせるものでしょうか？

そういった皆様のお悩みに、微力ながらお応え出来ればと思っております。当面は月に一度ずつ帰省し、皆様のお声を聞くことから始めます。月の半ばに数日ずつ魚町の実家におります。

もし、ネットの事などで質問を抱えていらっしゃる方がいらしたら、ご遠慮なくメール、お電話いただければと存じます。お待ちしております。お気軽にどうぞ。

メール：info@telepath.co.jp

電話：03-6233-6310（テレパス内／小山）

（おやま・リエこ）昭和36年生まれ。テレパス（株）代表取締役。WEBアプリケーション、システム開発を手がける。

拝啓 けせんぬまさま

新年あけましておめでとうございます。
本年もよろしく願いいたします。
今年の冬はとても寒く感じておりますがお元
気でお過ごしでしょうか。

さて、当地ではあまり賑やかな話しなど聞こえてきませんが、そちらではいかがでしょう。

今年一年が去年より良い年であるように過ごしたいものです。

先日、大島架橋のことをテレビで見ました。島の方々もひと安心でしょう。県のホームページでルートを見ましたが、完成するととても便利になりますね。平成30年度の完成予定とありましたが一日も早く完成することをお祈りいたしております。

大島へは一昨年、写真を撮りにまいりまして、島のあちこちを自転車で走り回りました。帰りが船の予定時間ぎりぎり、一泊覚悟で船着場へ急ぐと「早く早くの掛け声」、ありがたかつ

すがわら ひろみち

たです。待っていただいたことの有難さと、よい歳をして遅刻してしまったことの恥ずかしさが混じった複雑な記憶です。

島への橋は自動車専用とのこと。軽車両もなかまに加えていただきたいのですがどうでしょうね。エコばやりの昨今、エースポート!で自転車を借りてゆっくりと田舎道を走り大島見物、一泊しておいしいものを食べ、翌日またゆっくりもどる、なんていうのもよいではありませんか。

自転車の利用券に島の民宿の宿泊券をくっ付けると楽しいかもしれませんね。

また、ゆっくり写真を撮りに行きたいものです。桜の季節に、美しい海をバックに綺麗な花を撮れる場所はないでしょうか。

今年の春は、そんな風景を探してみたいと願っています。

ではまた。

懐かしい方々へ

（すがわら・ひろみち）昭和35（1961）年生まれ。仙台市在住。スガワラ保険サービス代表、NPOふるさとテレビ仙台支局長。

観光産業は基幹産業になりうるか

武山 健自

結論から言って、私は難しいと思っている。いまの機運に水を差すようなことを申し上げてたいへん恐縮だが、統計数字を読み解いてみるとかなりの努力を要すると思うからだ。

1. 観光客数の不思議

気仙沼市統計書によれば、観光客数は横ばいで年間 200 万人程度を維持、本吉町との合併で約 250 万人で推移しているが、経済波及効果はあるのだろうか。観光客数とは入り込み客数であって、入場者数のカウントあり、サンプリング調査による推計あり、すべてひっくるめてカウントされている。それゆえ重複カウントもある。もし私がみなとまつりへ行ったら、まず乗降客としてカウントされ、はまらいんやの参加者で、内湾を歩いている人で、花火を見ている人で、次々と加算されていくことだろう。それにゲタをはかせられて 10 人分でカウントされるのかもしれない。気仙沼に住んでいてもカウントされる。それほど不正確な数字だからひとつの指標として見るべきであって、観光客増だけで経済波及効果をみるのはとても危険である。

2. 延べ宿泊者数から産業規模を推計

実数を見るには、むしろ延べ宿泊者数を把握すべきだ。宮城県の統計書によれば、本吉町との合併前の数値だが、ある程度の推計がつくので計算してみた。

平成 21 年	
入り込み観光客数	195 万 6,300 人
延べ宿泊客数	21 万 7865 人
	(県内 38.9%、県外 59.7%)

観光客数から宿泊者数を引いた数が日帰り観光客数となる。

日帰り観光客数 173 万 8435 人
(県内 25.3%、県外 74.7%)

これに県が算出する一人当たりの推計消費額で、気仙沼地域の観光収入を計算してみた。

<県内客>
日帰り
5,300 円 x 1,303,826 人 = 68.8 億円
宿泊
27,600 円 x 84,736 人 = 23.4 億円

<県外客>
日帰り
10,900 円 x 439,824 人 = 47.9 億円
宿泊
40,600 円 x 129,980 人 = 52.8 億円

合計で 192.9 億円となる。この消費額にはガソリン代や新幹線代などの交通費も含まれることを勘案すると、正味 160 ~ 170 億円台が気仙沼地域の観光収入であると思う。

3. 宿泊収容数

ところで、気仙沼地域にどれ位の人数が泊まれるか。本吉町と合併後の数値であるが、宿泊収容数は次の通り。

<宿泊施設数>
56 施設 983 部屋 収容人数 3606 人
<民泊施設数>
39 施設 237 部屋 収容人数 1043 人

これらの施設が 1 年中満室だと、延べ宿泊者数は約 170 万人となる。これを県が把握する延べ宿泊人数で割ると稼働率は 12.8%となる。

実際の稼働率はもっと高いだろうし、開店休業中の宿泊施設もあるだろうから、これはかなり乱暴な見方だ。しかし逆に考えればあと8倍の收容能力があることを示している。8倍と言わずとも、宿泊客数が1.5倍増でも経済波及効果は日帰り客よりも高い。

4. 海からの上陸客

この観光統計にカウントされていない数字がある。それは船からの上陸者である。市の統計によれば平成21年で上陸者数は16万1,324人いる。この中には市内に自宅を持つ人もいだろうが、観光客として捉えれば他の地域にはない隠れた強みでもある。過日NHKで放映された「嵐の気仙沼」の通り、娯楽を楽んだり、食事をしたり、つかの間の休息を気仙沼で過ごすわけで、観光客に匹敵するどころか観光客以上の経済波及効果をもたらしているのが船からの上陸者であろう。

5. 基幹産業としての難しさ

上記の数字から、観光を基幹産業にまで育てあげようとすれば、今の10倍の規模が必要となろう。実際、気仙沼の市内総生産額は年間約1900億円（平成19年）であり、減少傾向にある。観光産業の軸であるホテルやレジャー施設は常に設備投資を要する装置産業でもある。国内人口の減少で観光地間競争がますます激化するの火を見るより明らかであり、ましてやデフレの波が止まらぬ中で、他地域と同じような事業を展開したところで果たして誘客に結びつくのだろうか。経済規模が拡大しない中では、雇用創出効果はあっても一人当たりの収入額が伸びるどころか目減りしていく恐れさえある。ちなみに観光を基幹産業とする沖縄県は、569万人の観光客で3779億円の観光

収入（平成21年度）、米国ニューヨーク市は4525万人の観光客で約2兆6000億円の観光収入があった（2009年）。観光客一人あたりの消費額は沖縄県で6.6万円、ニューヨーク市で5.7万円となる。

6. 「行かざるを得ない」仕組みを

そこで私はむしろ他の地域では真似のできない、水産を軸にした産業構造をもっと強化して、それを観光に結びつけることを提案したい。それは「水産関連で気仙沼に来なければならぬ」仕組みをつくることだ。ひとつは水揚げの促進。これはすでに官民一体となって進めていることと思う。

そして二つ目。唐突だが、国連の水産研究機関なり国際議決機関を誘致することだと心底思っている。世界中の人が有無を言わずやってくる。京都議定書みたいに水産資源を守る「気仙沼議定書」なんてできたら歴史教科書ものだ。長野オリンピック開催で新幹線が瞬間にできたように、拝み倒さなくても国家の威信をかけて高速道路が整備される。そうなれば観光客がどうだのこうだの悩まなくても、ビジネス客がやってくる。人が集まれば新しい仕事生まれる。そして観光につながっていく。なんて風が吹けば桶屋が儲かる式の皮算用だが、気仙沼にはそれだけの水産技術の蓄積があると思う。実現するには半世紀は要するだろう。まずは国内の合意をとりつけられるようその地位を確立すること、言い換えれば世界を視野に入れた水産の技術、研究の発信基地となることが末永い発展につながるものと信じている。

世界をみわたすと、水産は成長産業に位置づけられているのだから。

（たけやま・けんじ）昭和48（1973）年生まれ。（株）イーシンコミュニケーションズ代表取締役。

地域活性化研究会 気仙沼ビューロー支援者

当団体をご支援いただく方々をご紹介します。(2010年9月現在 / 順不同 / 敬称略)

白井賢志	気仙沼商工会議所 会頭	菅野卓夫	(株)気仙沼青果物流通市場 代表取締役社長
斉藤徹	気仙沼市観光コンベンション協会 会長	佐藤雄二	(株)カネダイ 代表取締役専務
足利健一郎	(株)足利本店 代表取締役社長	内海哲郎	(有)菓子舗うつつみ 代表取締役社長
川村賢壽	(株)かわむら 代表取締役社長	馬場国昭	(有)からくわクリーン 代表取締役
亀谷寿朗	福德漁業(株) 代表取締役社長		

地域活性化研究会 気仙沼ビューローについて

当団体は気仙沼地方と縁を持つ者たちが、それぞれが得意とする分野からの提言や活動を行い、気仙沼地方の発展に寄与できることを目指し、平成20年11月に設立されました。今後、テーマを絞った提案や勉強会を行う予定ですが、まだ設立されたばかりで夢は膨らむばかりです。気仙沼地方が未永く発展できるよう、外部からサポートできる最大限の事業をすすめていきたい、そんな風に考えております。

なお、参加資格はありません。気仙沼へ思い入れを持つ方であればどなたでも参加になれますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

【参加メンバー】(2011年2月25日現在 ☆印：新メンバー)

☆花柳寿々菊	☆藤村和男	☆小松憲代	☆東 勲
吉田利輝男	千葉一宏	佐藤則好	高濱 悟
小山智善	佐々木栄作	近藤 章	小山利英子
小野寺徹也	尾形 将	大森 郁夫	川村 浩
畠山信彦	貝塚文一郎	村上 洽視	畠山 明
中村勝子	日出 英輔	坂井 素美	岩手裕美子
佐藤晴男	畠山 朔男	菅原 洋道	佐藤 恭子
			武山 健自

【新メンバーからのコメント】

小松 憲代 さん

(昭和40(1965)年生まれ。日立製作所勤務)

毎年、実家に帰省して正月を迎えるようにしている。

故郷の冬は寒いが、生まれ育った自分の原点を見つめ直す意味でも、年の初めの正月はいい機会でもある。かな自然環境と三陸のうまい魚介類が出迎えられる故郷はありがたいと常々思っている。

今年の正月は故郷の海風を感じながら、室根山の雪を見つめ、いちだんと身がひきしまる思いがした。



【編集後記】

もうすぐ春。釜揚げしらすの季節ですね。熱々ごはんに盛って醤油をたらして…、想像するだけで喉が鳴ってしまいます。さて気仙沼は春から夏にかけて一層賑やかになることと思います。メンバーで徳仙丈のつつじ観光ツアーを、との声もあがっています。まだ構想段階ですが、実現できるよう進めていきたいと思っています。